



episode.09

紫尾山系の 「早掘りタケノコ」

話し手 きらめく竹林の里
みこし ゆうしょう
三腰 佑昭さん (昭和15年11月3日生)

聞き手 鹿児島県立薩摩中央高等学校
1年 岩村 笑玲菜 1年 坂元 莉菜
1年 末吉 風真

「孟宗竹を育てる」

紫尾山の土は、石ころが多く粘土質でタケノコには良いです。ここで採れたタケノコを紫尾山系というんですが、紫尾山系のタケノコは質が良いですね。重量もシラスで育ったタケノコより肉厚で重いみたいです。加工に出して缶詰めになった時に水で灰汁をぬいていくと、出来上がりが白くなるみたいです。タケノコの種類はいくつかあって、孟宗竹、古参竹、真竹、大名竹などたくさんあります。私が育てているのは孟宗竹です。昔、家の裏山には、孟宗竹が終わった後に、古参竹ができていました。でも、古参竹は鹿と猪の食害で、親竹の育ちが非常に悪く思うように育たなくなりました。最近、猟友会の方たちが対応してくださりましたので、食害はだいぶ少なくなったみたいです。

孟宗竹の収穫期は4月10日前後が最盛期で、その後はだんだんと量は少なくなっていきます。遅い時は5月の連休前までは、取引があります。

おすすめの食べ方は、タケノコの唐揚げ、あるいは干しタケノコの唐揚げです。ほかには、煮しめや刺身、味噌汁ですね。

「早掘りタケノコの特徴」

10月~3月までを早掘りタケノコとして出荷します。今年は10月13日が初出荷でした。おいしい早掘りタケノコを取るためには竹林の管理が大事です。間引きや肥料ですね。肥料は農家によって違います。タケノコの芽が出始める頃、それから芽が大きくなるように8~12月頃に肥料をやって、遅くやる人は正月までやるかな。肥料を長い期間与えると、育ち過ぎて管理が大変になるし、価格も安くなってしまいます。肥料を与える期間には気をつけています。また、タケノコは地中にある時は、ほとんど黄色です。それが地表に出てくると紫外線を受けて青く黒ずんできます。黄色い方が見た目もおいしそうに見えるし、紫外線を受けて青くなると品質的に落ちます。



「タケノコを見つけるコツ」

竹林に、しょっちゅう行って観察ですよ。タケノコが大きくなると地割れがしたり土が盛り上がったりしてくるので、芽が出ていなくても探せるようになります。地面の葉っぱをレーキでかき寄せて探しやすいようにするのも一つのコツですね。まあ、あとは勘ですよ(笑) まだ芽が出ていないタケノコを見つけたら、目印に棒を立てて土や葉っぱをかぶせて紫外線が当たらないようにしています。

「町おこしのために」

平成元年に旧宮之城町の町おこし事業の一環として立ち上げたのが、観光タケノコ園です。最初は鹿児島県内の方をターゲットにして始まりました。コロナが明けて、親子や友達でタケノコ掘り体験ツアーという形で県外の方を受け入れるようになりました。過去には女性グループが料理を作って区の集会所で昼食をとっていただくなど、ここ泊野地区のイベントになったこともありました。多い時には年間で約250人いらっしゃいます。今後の課題としては、若い人が興味をもつように魅力を発信していくことです。声を大にしていけないと後継者作りは難しいと思います。やることを態度で示して、絶えずに話をしながら魅力作りをしていくことが大事だと思います。

